

## D-1 成果と課題

### 1 成果

#### ①教科等の関連を意識した指導法の工夫について

今年度から本校では初めて、総合的な学習の時間と教科等との関連を明確にした。また、具体的な姿も低中高など系統性を持たせて理論化した。そのことにより、教育活動全体を通して身につけるべきつきたい力も、総合的な学習の中でも明確に指導することができるようになったと考える。

また、総合的な学習の時間での内容にも、系統性がでてきた。今年度は4年生は生活と環境について、5年生は農業と環境について、3, 6年生は生き物と環境という内容になっている。また、生活科を通して1年生では自分たちの生活と環境と結びつけたり、2年生では野菜作りと環境に重点を置いて学習している。各学年で内容がよく似ているが、学習の目標が各学年の発達段階に応じて設定することができており、ねらいが明確になった単元計画になっていると思う。

#### ②評価の工夫について

つきたい力を明確にし、評価の観点、規準を明確にすることで、児童一人ひとりの成長が客観的に見ることができてきた。また、総合的な学習の時間だけではなく、教科の時間にも、その評価をフィードバックすることができ、単元計画の工夫、事象の提示の工夫などをすることができ、総合的な学習と各教科とが二重螺旋のように絡み合いながら、子どもに必要な力がつけていくことができると考える。

### 2 課題

#### ①教科等の関連を意識した指導法の工夫について

各教科の育てたい資質・能力と系統性、その具体的な姿は本校の児童の実態に合っているのかわかを吟味しなければいけないと考える。また、環境教育を進めていくにあたり、教育課程の組み換えや、育てたい資質・能力の夕日寺小学校独自のスタンダードの作成も考える必要があるだろう。

#### ②評価の工夫について

評価の観点や規準を明確にして指導してきたが、まだ規準に達していない児童をどのように支援していくかをもっと細かく明記していくべきだと考える。到達度に達しない児童に対しての教師の支援を単元計画や、本時の計画にしっかりとつけていくことが大切だということが分かった。

### 3 おわりに

今回の原稿を作成するにあたり、総合的な学習の時間は、子どもの力がありありと発揮される場であると感じた。力が身につけている児童は生き生きと学習を進めていくが、まだ力が定着していない、発揮できない児童には、総合の時間は難しく、受身になって学習を進めてしまっている。自らの力で深く、広く学習を進めていくための壁を乗り越えようとする児童に対して、どのような支援ができるのか？その支援でよいのか？単元計画は？普段の授業ではどのようなことを大事に授業を行っている？と教師自身のあり方をもう一度考えるいい機会になったと思う。一人ひとりの児童が生き生きと学習を進め、将来の地球を守るために行動することができる夕日寺っ子を育成したい。そのためにも、教科等と関連し、的確に評価し、それを生かしながら進める総合的な学習でありたいと思う。